

<平成30年度 ハローオリンピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

兵庫県 神戸市立神戸生田中学校



平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間 (50分)

+

2時限目
座学の時間 (50分)



+



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容

■期 日：平成31年2月5日（火）

■ク ラ ス：2年3組（36名）、2年4組（36名）

■オリンピアン：中村 麻衣 先生（水泳／シンクロナイズスイミング 現：水泳／アーティスティックスイミング）【出場オリンピック／ロンドン大会、リオデジャネイロ大会】

■授業のながれ：運動の時間（3時限、5時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」という3つのオリンピックバリューについて学ぶと授業の目的を確認。
- ・準備体操として、ストレッチを行った後、じゃんけん勝ち抜けを全3回実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・8の字跳びを全3回実施。2班ずつ3チームに分かれて、引っ掛かっても続きから回数を数え、90秒間に跳べた回数を競う。

4. まとめ



- ・座学の時間は、運動の時間の取り組みを踏まえて授業を行うことを予告。今の取り組みを忘れずに、どのような気持ちで取り組んだのか、チームの雰囲気はどうだったか等を振り返り、整理したうえで、座学の授業のグループワークに取り組んでほしいと伝えて、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・リオデジャネイロ大会の映像と同大会で着用した水着や髪飾り、銅メダルを見せながら競技についての説明と自己紹介をした後、自身にととのオリンピックバリューについて、「エクセレンス＝卓越、ベストを尽くし頑張る心」、「フレンドシップ＝友情、理解し友情を育むこと」、「リスペクト＝敬意/尊重、フェアプレー精神を育む、自身を取り巻く環境への配慮・感謝」と説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



発問：運動の時間を振り返り、自分や同じ班の仲間のような行動がオリンピックバリューに当てはまるか考えてみよう。
 発表：「記録が伸びるように考え、努力する」「全力で努力した」「記録を伸ばすために気持ちを高めた」「一生懸命で楽しかった」(エクセレンス)
 「フォローしてくれた声を出し合うことができた」「チームワークが大切」「話し合って団結することができた」(フレンドシップ)
 「お互いを理解すること」「縄を回す人が頑張ってくれて感謝」「強かったチームを称える」「アドバイスを送った」(リスペクト)

4. まとめ



・オリンピックバリューにつながる行動は、日常生活の中にも見出すことができる。学校での生活、夢や目標に向かう中でもオリンピックバリューを感じる瞬間がたくさんあると思うので、オリンピック教室を通して学んだことを今後の学校生活、夢や目標の実現に向けて努力する場面で活かしてほしいと伝え、授業終了。

実施内容

■期 日：平成31年2月6日（水）

■ク ラ ス：2年1組（36名）、2年2組（36名）

■オリンピアン：佐伯 美香 先生（バレーボール・ビーチバレーボール）【出場オリンピック／アトランタ大会、シドニー大会】

■授業のながれ：運動の時間（3時限、5時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、オリンピックや「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」の3つオリンピックバリューをより身近に感じてほしいと授業の目的を確認。
- ・準備体操として、じゃんけん勝ち抜きを全2回と、ボールキャッチを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・6班対抗でバレーボールのパス回しを2分間×全3回実施。



4. まとめ



- ・座学の時間は「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」という3つのオリンピックバリューについて、自身の体験談等を交えながら話すと予告。皆のオリンピックに対するイメージも聞いてみたいと話して、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・現役当時の映像を見せながら自己紹介、オリンピック出場を通して経験したことを話すと伝える。
- ・東京2020大会もあるので、オリンピックについての知識も知ってほしいとオリンピックシンボルや5大陸について説明。
- ・自身にとってのオリンピックバリューについて、「エクセレンス＝卓越、ベストを尽くす、頑張る心、自分の可能性を信じて挑戦する」、「フレンドシップ＝友情、チームワーク、仲間を大切にする、コミュニケーション」、「リスペクト＝敬意/尊重、感謝」と説明する。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：夢や目標を実現するために、今後どのように取組んでいくかを具体的に考え3つのオリンピックバリューに当てはめてみよう。
- 発表：「学ぶことが重要、全力で取り組む」「自分の限界に挑戦する」「新しいことに挑戦して自分の可能性を広げる」「ミスを恐れない」(エクセレンス)
 「人との関わりを大切にする」「コミュニケーションをとる」「人を想い役に立てようになりたい」「お互い感じたことを伝え合う」(フレンドシップ)
 「家族や友達に日頃から感謝」「相手のことを考えて行動する」「アドバイスを素直に聞き入れる」

4. まとめ



- ・オリンピックバリューはオリンピックだけのものではなく、皆の日常生活の中にもあることが分かったのではないかと。夢や目標等を発表してもらったが、これから色々なことに挑戦し、自分を知り、自分に合うものを見つけてほしい。夢や目標を実現するには努力が必要で、その過程において思うようにいかないこともあると思うが、自分を信じて、周りの人に感謝することを思い出し、夢や目標を実現できるように頑張ってもらいたい。来年は東京2020大会が開催されるが、オリンピックを身近に感じ、オリンピックを見ながらオリンピックバリュー等、今日の内容を思い出してほしいと伝え、授業終了。

■ 集合写真
2年1組



2年2組



■ 集合写真
2年3組



2年4組



■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



2年3組



2年4組



■ 修了書贈呈

